

# 「瓷器」「茶碗」「葉碗」「様器」考

文献にみえる平安時代の食器名を巡って

Considerations of the Terms of Food Vessels in Heian Period Japan:  
What Were *Shiki*, *Chawan*, *Kubote*, and *Yōki*?

高橋照彦

- ①はじめに
- ②瓷器・青瓷・白瓷・茶碗
- ③葉碗・葉皿
- ④様器・栗栖野様器
- ⑤おわりに

## 【論文要旨】

本稿は、考古資料から食文化の諸相をより豊かに復元していくための基礎的作業として、平安時代の文献史料にみえるいくつかの食膳具と考古資料との対応関係を追究することにした。検討結果の主な内容は、以下の通りである。

まず「瓷器」については、10世紀後半以前は「青瓷」を指すことが明らかになり、その実体は基本的に国産の鉛釉陶器と推察される。「白瓷」についても国産の灰釉陶器を指すものと考えべきだが、灰釉陶器の生産の終焉後は灰釉陶器の系譜を引く無釉の陶器や、白磁を指す場合もあると判断された。

次に「茶碗」については、唐代において茶を飲むのに愛用されたのが陶磁器であり、そこから日本でも輸入陶磁器一般を「茶碗」と呼ぶことになったものとみられる。また、『延喜民部省式』に「茶碗」なる器種名を設定されたのは、それが中国陶磁模倣の器種であったことが要因となっていることも明らかとなった。

「葉碗」「葉皿」は、国産の施釉陶器に当てる見解が出されていたが、柏などの葉で作られた食器類であったと考えるのがふさわしい。よって、葉碗と瓷器（施釉陶器）は別物であり、施釉陶器の用途も葉碗にみられる祭祀具に限定する必要はない。

語義未詳の食器名として知られる「様器」に関しては、基本的に考古資料でいうところの白色土器であるという結論が導かれた。様器の語の由来については、1つの仮説として薄様などの紙を載せて使う器であった可能性を提示した。そして、そのような使用が主に行われる肴や菓子盛る器の意味であったのが、その用途にしばしば用いられていた白色土器に実体として固定化することになったものと推察した。